

第1分科会【国語】

国語科における探究的な学びのあり方 ～「実社会」「言語文化」をキーワードに～

〔報告者〕 中島 涼太（京都市立紫野高等学校 教諭）

〔報告者〕 中川 愛（京都市立堀川高等学校 教諭）

〔コーディネーター〕 加藤 健（京都市教育委員会 指導部 学校指導課 指導主事）

「生涯にわたる社会生活に必要な国語」の力や「我が国の言語文化の担い手」となり得るための資質・能力の育成といった、新学習指導要領における国語科の目標を達成するためのこれからの学びのあり方について、高等学校からの授業実践報告を踏まえて考えるとともに、それを大学での学びにどうつなげていくかについて交流した。

概 略

中島氏より、次年度より実施される学習指導要領において新たに設置される「古典探究」の科目の位置付けについて確認した上で、関連資料を調べて発表したり、古語と現代語を比較して考察したりといった、探究的な学びのプロセスに関わる活動を意識した実践例をご紹介いただいた。現在でもさまざまな漫画や小説等のモチーフとなっている「竹取物語」を取り上げ、「竹取物語」が元ネタとなっているような題材について考察する活動や、古典に描かれている人々の悩みに、いわば「未来人」としてアドバイスを考える活動など、生徒にとって自身の興味関心から出発しやすく、古典世界と現代の世界をつなぐことを意識した実践例は、生徒の主体的な学びにもつながると考えられる。

中川氏からは、授業において当然のように発せられてきた「問い」を問い直すという視点が紹介された。授業者が用意した問いには、それ自体が生徒の視点を限定したり、読みの方向を狭めてしまう側面があるため、主体的な読みを促すために、生徒自身に問いをつくらせる活動はよく行われているが、問いをつくるのがゴールとなってしまう、問いの「質」まで踏み込めていないことも多い。精読によって本文中に正解の根拠がつけられることを意識させてつくる問いと、解決可能性を度外視した純粋な疑問としての問いを区別して考えさせたり、授業での「気づき」を毎回記述させ、共有することで、講座全体としての読みの深まりを狙う工夫をしたりと、生徒の知的関心を尊重しつつ、読む力と併せて問う力を育てていこうとする取り組みを示していただいた。

全体討論の内容

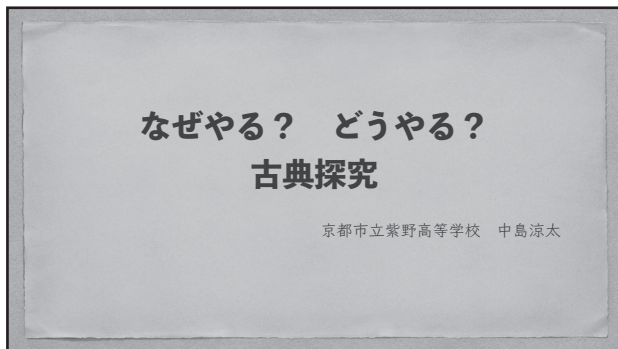
3人ずつのグループに分かれて、大学での学びに必要な「国語の力」とはどのようなものかについて、意見を交流するブレイクアウトセッションを行った。全グループのものを共有できては

いないが、話す・書くという「伝える力」とともに、改めて生徒の「読む力」を伸ばしていくことの重要性を再確認したという意見が複数挙がっていた。高校までの国語の学習においては、教科書をはじめ、与えられたテキストで学びを完結させることも可能であるが、大学での学びはそうではなく、学習者が自分にとって必要な資料を自身で探し、選び取る力が求められる。学習意欲や主体的な姿勢とともに、必要な文献にアクセスできる力も身に付けさせていく必要がある。

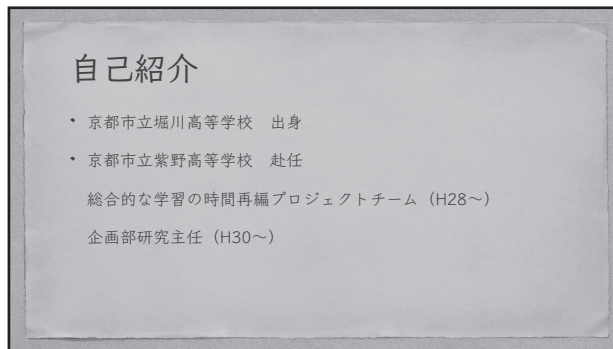
到達点と今後の課題

高校現場からは「大学での学びに必要な国語の力」が「大学に入るために必要な国語の力」の延長線上には必ずしも位置していないように捉えられる部分があり、次年度より実施される学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と、いわゆる受験指導の両立ができるのかという不安の声も大きい。今回報告者よりご紹介いただいた授業例は、生徒自身に調べさせたり、考えさせたりする時間が多く、ある程度まとまった授業時間数を要するものであるが、探究的な学び、主体的な学びという観点から、授業の年間計画を検討する中で、このような取り組みを確保できるよう意を用いたい。

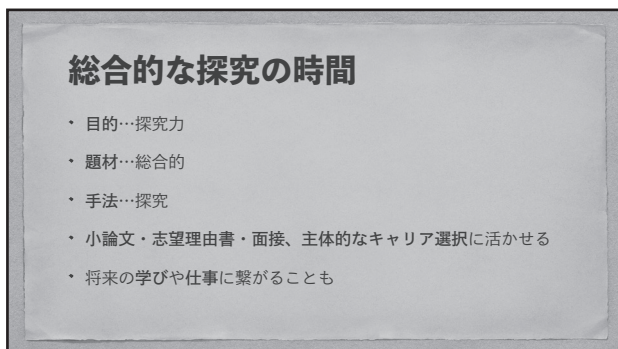
スライド1



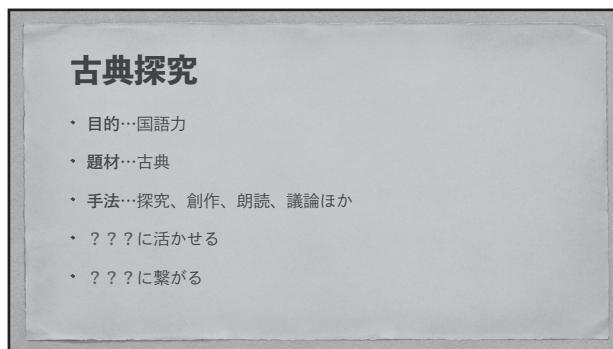
スライド2



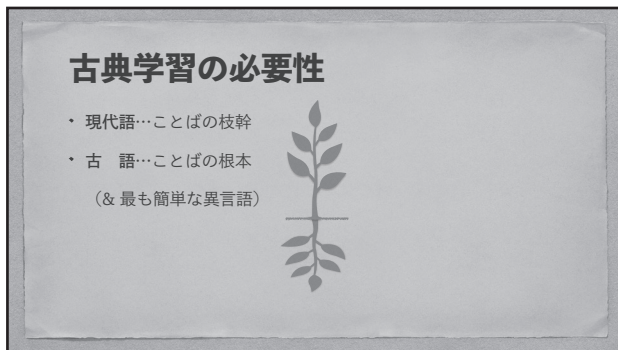
スライド3



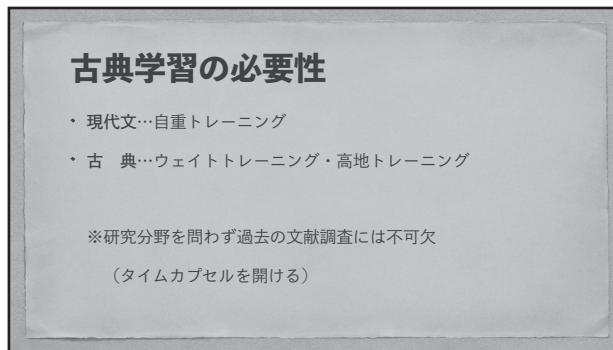
スライド4



スライド5



スライド6



スライド7

古典探究の必要性

⇒では、古典における探究学習の必要性は？（なぜやる？）

- ・学習指導要領解説「古典の意義と価値について探究する」

答えの自明でない問いを自分で立てて、自分で解決を試みる

※大学入学共通テストのことを考えれば、「古典探究」は
文理を問わず事実上の必修科目とも言えるが…

スライド8

古典探究の必要性－指導事項から

①思考力・判断力・表現力 A「読む」力のため？

- ア・イ 構成や展開、内容を捉える
- ウ・エ 解釈、評価、考察する
- オ・カ・キ 自分の知見や感性を豊かにする
- ク 言語文化について自分の考えを広げ、深める

スライド9

古典探究の必要性－指導事項から

②知識及び技能(2)「言語文化」の理解のため？

- ア 日本文化の特質や、外国文化との関係
- イ 文法・句法
- ウ 言葉の変化や現代語の成り立ち
- エ 読書の意義と効用

スライド10

古典探究の言語活動例

- ア・イ 読んで調べて／読み比べて、発表・議論・論述
- ウ・エ 創作・朗読
- オ 関連資料を調べて発表・報告
- カ 古語と現代語を比較して考察
- キ 名句・名言が題材のエッセイ

特にこの二つは
学習指導要領解説で
「探究」の言及あり

スライド11

古典探究の必要性和方向性

⇒常に探究学習でなくとも良いが、指導事項を網羅するのに必要

…

⇒では、どうやる？

自分で課題解決を試みる

答えの自明でない問いを自分で立てて

古典の意義と価値について

受験生にとって文理問わず履修すべき科目

スライド12

古典探究の方向性

- ・特定の作品の価値や解釈について探究する
 - 自分で問いを立てるのが難しい
 - 国文学研究のノウハウが必要
- ・探究活動を通して言語文化の理解を深める
- ・自分の課題に対するヒントを古典に求める

発展問題・課題解決学習で良い
題材もまず現代小説の方が良い

スライド 13

探究案 1－今に繋がる古典文学

- ①平安時代の伝記物語「竹取物語」を通読する
- ②与えられた資料から「竹取物語」の元ネタを探し出す
 1. 「古事記」開化天皇統譜・垂仁天皇統譜
 2. 「万葉集」巻一六・3791～3802の詞書
 3. 「丹後国風土記（逸文）」比治真奈井・奈具社の条

スライド 14

探究案 1－今に繋がる古典文学

- ①平安時代の伝記物語「竹取物語」を通読する
- ②与えられた資料から「竹取物語」の元ネタを探し出す
 - (4.求婚難題の出典となった漢文を読む)
 - (5.阿倍・大伴・石上を歴史事典で調べる)

スライド 15

探究案 1－今に繋がる古典文学

- ③もう一つの竹取物語（「今昔物語集」巻三―第三三話）を読む
- ④「竹取物語」が元ネタのものを自分で探して概要を発表する

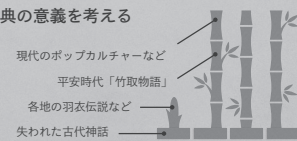
→絵画・楽曲・小説・漫画・映画・アニメ・ゲーム・CM
キャラクター・人工衛星・農作物・施設・取り組み…

※自分の興味・関心に基づいて自由に探究する

スライド 16

探究案 1－今に繋がる古典文学

- ⑤「竹取の元ネタ」から「竹取が元ネタ」までを系図にまとめ、
社会における古典の意義を考える



スライド 17

探究案 1－今に繋がる古典文学

- ※これは元々は3年生の選択科目「古典購読」の指導案
- 本来①～⑤の手順を全生徒がなぞるべきだが、3年の秋冬なら
- ②「竹取の元ネタ」・③「もう一つの竹取」・④「竹取が元ネタ」
- の3つの活動を「人文系志望組」「受験組」「受験勉強不要組」に割り振って、同時並行で活動してから⑤でまとめてもよい。

スライド 18

探究案 2－過去に繋がる私の悩み

- ①自分の興味・関心や問題意識に応じて、テーマを選択する。

→恋愛・性差・家庭・社交・上下関係・仕事・離別・死…
- ②教員が事前にテーマ別に選定しておいた作品群をつまみ読み
- ③昔の人がどういう社会情勢で何に悩んでいたかを整理する
- ④「未来人」の目線で筆者や登場人物の「悩み相談」に応える

スライド 19

探究案 2－過去に繋がる私の悩み

⑤逆に、自分の悩みが昔の人の目にはどう映るのかを考える

→過去への視線を反転させて現代社会に投射する



スライド 20

古典探究の必要性と方向性：結論

- ・ 自己の知見や感性を豊かにし、言語文化を理解するために、
- ・ 古典作品や関連資料を用いて、自分の興味・関心に従って、
- ・ 学習者自身が古典世界と現代の世界を往還するような活動。
- ・ それは、今に活かせるし、未来に繋がる。
- ・ ただし、指導には相応の工夫が必要。

スライド1

2021年12月4日
第19回 高大連携教育フォーラム 第1分科会 実践発表

現代文の授業における「問い」とは ～『舞姫』を通して～

京都市立堀川高等学校 中川 愛

スライド2

自己紹介

- * 京都市立堀川高等学校 出身
- * 京都市立塔南高等学校 赴任（H27～）
- * 京都市立堀川高等学校 赴任（H30～）
- * 担任7年目 現在3年生の担任

スライド3

「問い」について問う

当然のように「問い」と「解答」を用意して授業に臨んでいて良いのだろうか？

本当に「問い」は大事なのか？

スライド4

「問い」について問う

『広辞苑』によると...

「問い」＝問うこと。

「問う」＝物事を尋ねただして返答をはっきりさせる。

「尋ねる」＝何かを手づるにして源を求めていく。

スライド5

「問い」について問う

国語（現代文）の授業における「問い」

文章全体を精確に読解し、その本質に迫る（さらに自らの考えを深める）ために、授業者及び生徒が答えを期待して発するもの。

スライド6

「問い」について問う

授業の中の「問い」

- ① 教員が用意する（発問/設問）
- ② 生徒に考えさせる（例：初読時の疑問）
- ③ 生徒が自発的に持つ（例：授業で扱う意味）
→ 本当に「問い」なのか？

スライド 7

「問い」について問う

「問い」ではなく「指示」？
「用意された答え」を忖度するのでは？
生徒の「疑問」は単なる「答えようのない問い」？
生徒に「問い」を作らせるのは何のため？
「問い」は本当に大事？

スライド 8

「問い」について問う

「問い」は大事！「問う」前に意識したいことは...

生徒に「未知」と「既知」の弁別を促す
生徒と授業者が互いに「未知」と「既知」の領域を知る

スライド 9

『舞姫』を読む前に

【大テーマ】
これまでの授業で読んできた「近代小説」を貫くもの（構造）を俯瞰的に分析する
「近代の延長線上に私たちがいる」
「近代的自我」VS somethingという構造
→新指導要領により「定番教材」ではなくなる？

スライド 10

『舞姫』前篇 ～読むための「問い」～

「余」はどのような状況でこの文章を書いているか

「余」はなぜこの文章を書こうと思ったのか

スライド 11

『舞姫』前篇 ～読むための「問い」～

「クロステル巷」の景観はどのように描写されているか

豊太郎とエリスが「離れがたき仲」になったのはなぜか

スライド 12

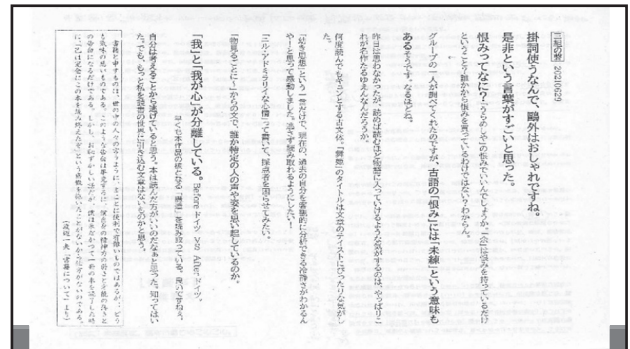
『舞姫』前篇 ～読むための「問い」～

「我が学問は荒みぬ」とあるが、そのかわりに豊太郎が手に入れたものは何か

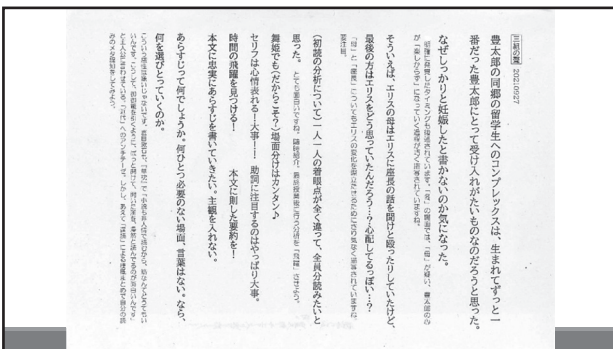
スライド 13

『舞姫』前編 ～内発的な「問い」～
「現代文研究Ⅱ日々の記録」より
毎回の授業で「学んだこと(普遍的教訓)」と「気づきや感想」を書く
→読むための「問い」・「読みたい」「読めた」の表明が見られる

スライド 14



スライド 15



スライド 16

『舞姫』後編 ～自ら「問う」～
①通読後の感想や解釈を記述しよう
前篇の内容と接続させて述べること
②豊太郎の心情(の変化)に関する問いを一つ考えよう
その問いが良いと思われる理由、解答に至るプロセスの案も明示すること

スライド 17

『舞姫』後編 ～自ら「問う」～
③その他に、読解の鍵となるであろう箇所、純粋な疑問、授業で考えたいことなどを書こう

スライド 18

『舞姫』後編 ～自ら「問う」～
②より
「いかで命に従はざらん」と答えたときの豊太郎の心情を説明せよ
「ああ、余はこの文を見て初めて我が地位を明視し得たり」とあるが、このときの豊太郎の心情を、前後の内容から読み取って述べよ

スライド 19

『舞姫』後編 ～自ら「問う」～

②より

「ああ、なんらの特操なき心ぞ、『承りはべり』と答へたるは」から、当時の自身の言動を、日記を書いた日の豊太郎がどのように思っていることが分かるか

スライド 20

『舞姫』後編 ～自ら「問う」～

②より

「一点の彼を憎む心」とはどのような心か

スライド 21

『舞姫』後編 ～自ら「問う」～

③より

エリスのその後が気になって仕方がない
なぜ豊太郎はエリスを連れて帰ろうとしなかったのか
エリスがそこまで不安定になる…？

スライド 22

『舞姫』後編 ～自ら「問う」～

③より

いつから豊太郎はエリスに愛情を抱かなくなったのか
結局、豊太郎は何のためにこの日記を書いたのか
なぜ鷗外はわざわざこのような作品を書いて世に発表したのか

スライド 23

『舞姫』を通して

「現代に生きる私たち」を俯瞰的に捉えなおす
文章読解のために「問う」こと自体を捉え直す
(授業者も生徒も)

「問いづくり」は安易に取り入れがちだが生徒に「問う力」が培われた段階でこそ有効

スライド 24

「問い」は大事

本当に読めている？(読みたい！)と問う

「問える」は「読める」

「読み切れない」部分も問い続ける

スライド1

2021年12月4日
第19回 高大連携教育フォーラム 第1分科会

国語科における探究的な学びのあり方

～「実社会」「言語文化」をキーワードに～

京都市教育委員会
学校指導課 指導主事
加藤 健

1

スライド2

新学習指導要領における「探究」

①「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へ

○第1の目標
総合的な学習の時間（平成29年告示）
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（後略）

総合的な探究の時間（平成30年告示）
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（後略）
（指導要領解説 総合的な探究の時間編）

2

スライド3

総合的な「探究」の時間へ

課題と生徒との関係（イメージ）

「学習」→課題を解決することで自己の生き方を考えていく学び
「探究」→自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学び

3

スライド4

総合的な探究の時間「質の高い探究」に向けて

I 探究の過程の高度化

- ①探究において目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）
- ②探究において適切に資質・能力を活用している（効果性）
- ③焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性）
- ④幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）
などの姿で捉えることができる

II 探究の自律化

- ①自分にとって関わりが深い課題になる（自己課題）
- ②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる（運用）
- ③得られた知見を生かして社会に参画しようとする（社会参画）
などの姿で捉えることができる

（指導要領解説 総合的な探究の時間編）

4

スライド5

新学習指導要領における「探究」

②名称に「探究」を含む科目の新設

- ・古典探究
- ・地理探究
- ・日本史探究
- ・世界史探究
- ・理数探究基礎
- ・理数探究

「当該の教科・科目における理解をより深めるために、探究を重視する方向で見直しを図られたもの」
（指導要領解説 総合的な探究の時間編）

5

スライド6

新学習指導要領における「探究」

※各科目の「探究」と総合的な探究の時間の「探究」の違い
総合的な探究の時間における探究では、

- ①学習の対象や領域が、特定の教科・科目等に留まらず、横断的・総合的である
- ②複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究する
- ③解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだすことを重視する
（指導要領解説 総合的な探究の時間編）

6

スライド 7

「古典探究」について

1 性格
 伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と社会にとつての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視。

2 目標
 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

7

スライド 8

「古典探究」について

「古典探究」は、共通必修科目「言語文化」により育成された資質・能力のうち、「伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため、ジャンルとしての古典を学習対象とし、古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会についての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視した科目として新設しています。

8

スライド 9

「古典探究」の指導事項より

探究的な学びと特に関連が強いと思われる項目

〔思考力、判断力、表現力等〕 A 読むこと
 エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
 オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。
 カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
 キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。

9

スライド 10

新学習指導要領における「実社会」について

実社会とは、私たちが生きる現実の社会そのものである。実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるとは、学校生活や身近な社会生活における様々な関わりを含みながらも、社会人として活躍していく高校生が、他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができるようにすることを示している。

(指導要領解説 国語編)

10

スライド 11

国語科目における「実社会」

○「現代の国語」は、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目として、……

○「論理国語」は、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目として、……

○「国語表現」は、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目として、……

(指導要領解説 国語編)

11

スライド 12

各科目の指導事項より

「現代の国語」読むこと イ
 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。

「論理国語」読むこと ウ
 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。

「国語表現」書くこと ア
 目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすること。

「探究的」な学びを意識している

12

スライド 13

報告を踏まえて考える

①「言語文化としての古典」のとりえ方

古典探究「読むこと」の指導についての配慮事項
ウ 必要に応じて、古典の変遷を扱うこと。

古典の変遷とは、近世以前の文章史や文学史のことである。上代から近世に至る時代の推移と、文章や文学の変遷とは密接な関連がある。読んだ作品や文章の書き手がどのような考えをもち、その時代の他の書き手はどのような考えをもっているのかを知ることや、散文や韻文といった文章の種類が、書かれた時代によってどのように変遷しているのかなどについて理解を深めることが、主体的で多面的・多角的な視点からの読書にも結び付いていく。

13

スライド 14

報告を踏まえて考える

①「言語文化としての古典」のとりえ方

古典探究の目標(再掲)
(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

14

スライド 15

報告を踏まえて考える

①「言語文化としての古典」のとりえ方

(現行)古典Aの目標
古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

(現行)古典Bの目標
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

「古典探究」の目標では、対他・社会が意識されている

15

スライド 16

報告を踏まえて考える

②「教材ありき」から資質・能力ベースへの転換

- ・(既に価値付け、権威付けされた)「名作」「定番教材」をじっくり読ませることが中心となっていなかったか
- ・テキストを授業の中で扱うことで生徒にどのような力を身につけさせるのかについて、改めて考える必要がある
- ・学習の「手段」として消費していただくだけではもったいない
- ・作品そのものに対する(学問的)関心を喚起するようなアプローチも必要か
- ・国語の授業をきっかけに文学部を志したというような体験をする生徒は今後も生まれるか?

16

スライド 17

丸山真男『文明論之概略を読む』より

古典を読み、古典から学ぶことの意味は——少なくとも意味の一つは、自分自身を現代から隔離することにあります。「隔離」というのはそれ自体が積極的な努力であって、「逃避」ではありません。むしろ逆です。私たちの住んでいる現代の雰囲気から意識的に自分を隔離することによって、まさにその現代の全体像を「距離を置いて」観察する目を養うことができます。

古典との「距離感」をどうとらえるべきか

17

スライド 18

求められる「国語の力」

- ①高校での学びに必要な国語の力
- ②大学入学時に必要な国語の力
- ③大学での学びに必要な国語の力
- ④大学卒業後(社会で)必要な国語の力
- ⑤生涯を通じて必要な国語の力

18

求められる「国語の力」

- ①高校での学びに必要な国語の力
- ②大学入学時に必要な国語の力
- ③大学での学びに必要な国語の力
- ④大学卒業後（社会で）必要な国語の力
- ⑤生涯を通じて必要な国語の力

19

あまり時間はありませんが……

- ①高校での学びに必要な国語の力
- ②大学入学時に必要な国語の力
- ③大学での学びに必要な国語の力
- ④大学卒業後（社会で）必要な国語の力
- ⑤生涯を通じて必要な国語の力

3人グループに分けさせていただきますので、
③の力とはどのようなものか、どうすればその力が身につくか、意見交換をお願いします。

（探究的な学びとの関連などについても……）

20